

## 令和2年度第3回恵那市総合教育会議議事録

日 時 令和3年3月26日（金） 午後4時00分～午後5時00分

場 所 恵那市役所西庁舎4A会議室

会議次第 1. 市長、教育長あいさつ

2. 議題

(1) 恵那市教育大綱について

出席構成員：恵那市長

(6名) 教育長

教育委員

小坂 喬峰

大畑 雅幸

樋田 千史

後藤 伸子

西尾 修欣

村松 訓子

事務局： 副教育長

教育委員会事務局長

教育総務課長

学校教育課長

教育総務課係長（記録）

安藤 一博

長谷川 幸洋

西尾 克子

丸山 頼彦

古屋 恵子

開会（午後4時00分）

■事務局（西尾教育総務課長） 令和2年度第3回恵那市総合教育会議を開催します。設置要綱第5条に基づき会議を公開し、第6条に基づき議事録も公表します。

## 1. 市長、教育長あいさつ

■市長 皆さんこんにちは。本日は第3回の総合教育会議です。委員の皆さまには、定例会に引き続きの会議でお疲れのところ恐縮ではございますが、もう少しお付き合いください。

振り返ると、恵那市は、すべての学校とこども園にエアコンを設置しました。またすべての子どもたちにタブレットも配ることができ、現在はトイレの洋式化を一生懸命進めさせていただいています。子どもたちもしくは学校に求められる機能は少しずつバージョンアップしてきたと思います。今後も地域の核となる学校として進めていきたいと思っています。

今日は、少し前の日本経済新聞に掲載された「EBPM」という言葉をご紹介しますと思います。Evidence Based Policy Making。要するに実証に基づきいろいろな政策を決めていこうという記事の内容です。その中で、三菱UFJリサーチ&コンサルティングが調べた、エビデンスの一つで、新型コロナが教育に及ぼす影響を探るために、小学生から高校生までの子どもがいる世帯2千人にアンケートを実施したそうです。記事には3つのことが紹介してありました。一つはパソコンやタブレット端末を持たない世帯の割合は、年収400万円未満や一人親の場合、3割まで増えたそうです。親の収入の多い少ないで子どもに対するタブレットを与えるかどうかに差が出てきた。二つ目は、オンライン教育を落ち着いて受けられるような環境があると答えた人の割合は、高い所得の世帯ほど大きくなった。大きな家に住んでいれば、子ども部屋が一人一部屋ありますが、小さなアパートなどに住んでいると兄弟が二人三人いても一部屋を仲間で使わなくてはいけないため、落ち着いて勉強ができない。三つ目が、臨時休校の前後を比べると、成績が下位の層の子どもたちは勉強時間がほぼ半減したということです。これもイメージ的にはつかめると思います。このようなことがある中、私たち行政や教育に携わる者たちがいったいどういうことができるのかということも一つ大きなテーマとして、これは政策のポリシーをこれから決めていくのに参考になると思い、ご紹介しました。恵那市としてもできる限り子どもたちに、チャンスを与えるという意味で、いろいろな取り組みをしています。ハード的な環境はずいぶん整いましたので、ここから先はソフトウェア、そして使い方もしくは保護者も含め利用の仕方に入っていきることになりますが、試行錯誤しながら実現していければと思っています。本日も活発なご意見を賜りますようお願いいたします。

■教育長 改めまして、皆さんこんにちは。市長さんには大変お忙しいところありがとうございます。委員の皆様については、定例会に引き続きでお疲れのところ申し訳ありませんが、よろしく願いいたします。今日、恵那市の学校は修了式でした。午前中に修了

式を行い、引き続きどこの学校も教員の離任式を行ったと思います。3月12日には中学校、昨日25日には小学校の卒業式がありました。先ほど教育委員の方々には少し紹介しましたが、昨年度の卒業式は、臨時休業中で、卒業式が実施できるかどうかという状況の中、一律に制限をかけ、子どもたちやあるいは保護者にもずいぶん辛抱していただくことが多くありました。本年度は、一年間考え、そして昨年の教訓を生かして、実施することができました。学校ごとに状況は異なりますが、市から援助していただき、特に市街地の学校では、アマックスコムによるライブ中継を行い、会場に入れなかった保護者にサテライト会場で見えていただくことも行いました卒業式の様子をDVDに録画して配ることも行ったため、今のところ、保護者からご不満の声が聞こえてくることはありません。私は昨日、大井小学校の卒業式に出席しました。もちろん国・県からの指示で、みんなで大きな声で歌ってはいけないという制限がある中、普段なら伴奏者や指揮者を教員で行いますが、子どもたちをステージに上げて行わせていました。また子どもたちは事前に録音した音声入りの国歌や校歌を聞きながら心の中で歌う。大井小学校では、最後に合唱をしたいという強い気持ちから、工夫に工夫を重ねて、手話で披露しました。手話で行うということは、当然、どの子もその言葉の意味を一度自分の頭の中で理解し、表現するわけですから、本当に独特の何とも言えない感動的な卒業式になりました。このように置かれた状況の中で、精一杯知恵を働かせ、そしてやれることをやる。コロナ禍で、そういう力というか知恵もついたのでないかと思っています。現在、アマックスコムに各学校の15分の紹介番組を作っていただき、2時、4時、6時に放映しています。昨日は山岡小学校でした。山岡小学校の様子を見ていてびっくりしたことは、私たちの期待以上に、子どもたちがタブレットを使いこなしていたことです。低学年でも大人では真似できないほど使いこなしていて、本当にうれしくなりました。子どもは短い間にこんな風に使ってしまおうのだと思いました。あとは、先ほど市長さんの話にもありましたが、家庭の環境はそれぞれです。そういう中で最低限ネット環境を早く100%にして、学校で指導をしながら、子どもたちがゲームではなく、タブレットで学校から働き掛けをした算数や国語などの勉強を行うような流れに早くしていきたいと思っています。本日は、今回、見直しをした恵那市の教育振興基本計画の後期計画が出来上がりましたので、説明させていただきながら、ご指導いただきたいと思っています。本日はよろしくお願ひいたします。

## 2. 議題

### (1) 恵那市教育大綱について

- 事務局長 恵那市教育振興基本計画を総合教育会議で承認を得て、教育大綱として定める。今回、10年間の計画の中間年であるため、後期計画の見直しを行ったことに伴い、教育大綱も見直すため、会議に諮らせていただく。

主な変更点は、教育振興基本計画は第二次総合計画に基づくものであり、SDGsとの関連について新たに書き加えた。第2章の現状と課題にある数値については直近のものに修正。17ページの第二次恵那市総合計画の体系では、教育に関するポイントに

ついて、体系図の中で色付けして示した。18ページからは関係する計画について記載。記載されている計画は教育大綱の基となる計画であり、見直しまたは新たに計画ができたものである。22ページからの恵那市の教育における課題において、策定委員の方から指摘があり、郷土愛の中に、強く家族の大切さを理解することが必要ということで家族愛という言葉を追記した。またICTを活用した学びの推進という項目を追加。25ページからの基本目標については、10年間の目標として計画を立てているため、変更はしていない。ただし、基本目標3の郷土愛については、「家族を大切にすることを育む教育を推進」という文言を追加した。27ページでは施策として「ICTを活用した教育の推進」を追加し、現在進めているICT教育について掲載した。また31ページでは食物アレルギーについて、35ページには国・県の計画でも子どもの貧困が話題に上っていることから、貧困対策について明記した。40ページでは地域づくりの推進の中で、地域学校協働活動について、41ページには、ICTを活用した教育の推進、42ページではエアコン設置やトイレの洋式化、タブレット配付などの施設整備に関して記載した。以上が主な変更点です。

- 教育総務課長 ありがとうございます。今、教育振興基本計画、それから大綱案について説明がありましたが、ご意見ご質問はございませんか。
- 西尾委員 10年にわたる大綱、基本計画の中間見直しです。これから5年間の新たな指針になるわけですので、我々はもちろんですが、学校現場においても、また家庭においても広く読まれるといいと思います。ただ、そういった機会がないとは言いませんが、手に取っていただけることが難しいかという懸念はあります。どんな機会でもいいので、この計画が恵那市の教育の基になるということを保護者はもちろんですが、子どもたちにも手に取ってもらえる機会を作っていただけたらと思います。
- 教育長 問題提起してよろしいですか。委員の方には、策定委員会が出された意見について、あまり話をしていません。今回、家族愛という言葉、あるいは家族の大切さということを何箇所か入れさせていただきました。その中で、私もある意味、考えさせられたことは、戦後の民主教育の中で子どもたちに、「君たちには可能性がある。人生は一度しかない。一生懸命勉強し、あるいは可能性を追求して、そして思いっきりはばたきなさい」という言葉で締めくくる学校教育をしてきました。そして家庭でも同じようなことを親は言っていました。その結果、多くの者が都会に出て行って、なかなかふるさとへ戻ってこないという現状と、少子化がこの地域の課題になっています。課題になったからと言って、果たして学校教育、あるいは保護者の判断によりますが家庭教育で、ふるさとへ戻って来なさいと投げかけていいのか、という点について自分自身は悩みました。しかし策定委員の方々はその思いがすごく強いです。その中で、郷土愛を育むよう一生懸命取り組んでいるため、恵那市の子どもたちの多くは、恵那市、そして自分の住んでいる地域が大好きです。お祭りも大好きで、行事には昔と比べてずいぶん積極的に参加しています。しかし、やがて高校を卒業して、大学に進学したり社会人になったりすると、多くの子が特に山間地の小規模校の子どもたちはほとんど戻ってきません。こういう中で、考えさせられるのは、やはり家族です。子どもたちが成長する分、

大人は年老いていきます。家族のことを考えたときに、自分は行動範囲も広がり、力もつき、お金も稼げるようになった。そういったときに、お父さんお母さん、もっと言えばおじいちゃん、おばあちゃんのことを考えさせることは必要だと思います。そのあとに戻ってくるかどうかは次の判断になりますが、そういう思いを委員の何人かそれぞれ言葉は違いますが、願いがありました。最終的に家族愛や家族の大切さというのは郷土愛の一番の原点だと私は思います。そういうことで言うと、令和3年度からの後期計画では、学校教育の中に記載するだけではなく、どういう形で子どもたちに投げかけていくか考えていく必要があると思っています。この件についてご意見が賜ればと思いますが、いかがでしょうか。

- 西尾委員 昨日、私は上矢作小学校の卒業式に出席し、教育委員会の告辞を行いました。それに合わせて祝辞を述べました。内容は「上矢作小学校の校舎の南側を川村川が流れています。川村川は上矢作中学校の横を通過して、その下流で矢作川に合流する。矢作川は愛知県内を通過して三河湾に注ぐ。三河湾は太平洋につながっていて、太平洋は世界中の海につながってくる。だから、この川村川の水の一滴が世界につながっているということを感じておいてほしい」という祝辞を述べました。教育長さんがおっしゃった子どもたちに可能性を与えて、世界に目を向けて、羽ばたいていくという、少し古いスピーチだったのかと思わなくはないのですが、やはり子どもの育ち、巣立ちというものは、そういうことだと思います。その上で、教育長さんが言われた、家族のことも目を向けてねと、郷土にも目を向けてねと。そういったことも、いろいろな要素が含まれていると思います。どれか一つが正しいということではないと思います。市長さんが力を入れて、この地元に働ける場所を作ろうとくださっています。そういったことも含めて、この教育大綱がどちらを向いているのかということではないと思います。
- 村松委員 私も、委員さん方がこだわられて家族愛ということを入れられたことはいいと思います。子どもたちが郷土愛と聞くと、先人に学ぶという感覚があります。ふるさと学習で地域の先人に学ぶという勉強を頭に浮かべてしまうと思いました。家族を入れることで、ふるさとをすごく懐かしく思い、いずれ帰ってきたくなる。ふるさとに対する思いが身近になるような気がするため、子ども目線に立っても、その言葉にこだわっていただいて入ってよかったと思いました。
- 樋田委員 勉強はすればするほどできるようになる。そうすると市から出て行ってしまふ。それは働く場所がないのではなく、夢を持って出ていくのであって、郷土を捨てているわけではないと感じます。周辺地区でも、勉強ができた子は、高校を出て、大学に行くと、ほとんど戻ってきません。外で就職した子たちは、会社の近くに家を建ててしまいます。だからと言って、外へ出た子が恵那を捨てたかという、そうではありません。同窓会など開くと、恵那で過ごした時の話をよくしますし、郷土を愛している。恵那にいるから郷土愛があるということではないと思います。私は、大井小学校で太鼓を教えています。民生委員さんから、卒業生に送るためビデオレターを作るのでメッセージがほしいと言われました。大井小学校では、太鼓や琴、お茶などを地域の方たちが一生懸命教えています。私がメッセージで言ったことは、「皆さんはその地域の人たち

が一生懸命やってみえることに巡り合える、よい経験ができたけれど、あなたたちの周りにはもっといろいろなことを一生懸命やっている人がいっぱいいます。あなたたちが後を継ぐか継がないかは自分次第ですが、そう人たちがいることを知ることが、自分のこれからの人生の経験に生きてきますよ」という話をしました。恵那市の人口は5万人をきってきていますが、これは恵那市を捨てているという感じはありません。恵那市は人口減少対策に取り組み、みんなが一つになって対策をしている。そういうことを広げていくことが大事だと思います。一足飛びにはできないが、地道に行うことが大事であると同時に、私たち大人が子どもたちに気づかせてあげることが大事だと思います。教育大綱も隅から隅まで読めば本当によいことが書いてありますが、これをすべて行おうとするとすごく大変です。読み手が書いてある中で、一つ選んで実行してみようと思えるように仕向けて行く。そういう種をまいておくよといと思います。今回、健康スポーツで、一市民スポーツをやれないかということがいつも話に出ます。しかし、どのようにスポーツをすすめるのか。体育連盟の各協会がブースを作り、少し体験、経験しながら興味のあるスポーツを見つけて続けてくれるといいと思います。体育連盟の協会はアピールしていくことも考えるといいですという話をしたことがあります。やはり先ほど言ったように、大人が種をまいて、子どもに興味を持ってもらうように、大人はアクションを起こすことが大事だと思います。

毎年6月の第1日曜に健幸フェスタがありました。去年はなかったですね。今年はどうですか。

- 事務局長 本年度は、開催できるよう準備はしていると思います。
- 樋田委員 先日、体育連盟から連絡があり、参加するかの問い合わせがありました。参加する場合、密を避ける工夫が必要ですが、その通りだと思います。健幸フェスタは人気があり、大勢人がみえるので大事だと思います。先ほど言ったアクションを起こすことにつながると思います。
- 後藤委員 やはり郷土愛や家族愛というのは、結局は人と人とのつながりだと思います。そういった人と人とのつながりを大切にする取り組みが、これからは必要となると思います。このコロナ禍でリモートなど、実際に対面することが少なくなってしまったので、何か工夫をして、リモートだけではない、つながりをどんどん持っていければいいと思います。先日、昔の記事に田舎ではどんどん人が流出してしまうので、どうしたら引き止められるかといったときに、地元の人の話も聞くのですが、逆に外から入ってきた人の話を中学生が聞く。今は田舎でもパソコンなどを使ってできる仕事があるため、それを聞いたことによって、こんな働き方があるのだと、子どもたちが知る機会を作る。僕たちは今田舎にいて、こんな生活いやだ、もっと広い世界が見たいと思って、外に出ていくとは思いますが、話を聞いてひとつ選択肢が増えたと言っていました。いったん出て行っても、また戻ってくることもできる。ちゃんと田舎でも仕事ができるということが書いてありました。もちろん地域の方の話も聞きながら、そういった逆の立場の方の話も聞くのもいいかと思えます。この計画を学校運営協議会の委員さんや地域協議会の委員さん、PTA関連の方すべてではなくても、こういう方針で行っていることを

広く知っていただければいいと思いますので、一部だけでもお渡しできればいいと思いました。

■教育総務課長 ありがとうございます。市長さんいかがですか。

■市長 はい。教育長さんが言われた郷土愛とか家族愛。そしてこれはおそらく日本の地方の多くが抱える人口減少に関する一つの取り組みだと考えていいと思います。ただ、正直答えはきっと見つかっていません。日本の地域それぞれが人口減少に突入していく中で、どういうアイデアで地域を愛する人に戻ってきてもらうか。これが一つの大きなテーマになると思います。この何年か、新入職員が毎年4月1日に入ってくると講話を行っています。その時に新入職員に言うのは、まず、恵那市を好きになってくれと。恵那市のことを30分は語れる人間になってほしいと言います。その心は何かというと、郷土愛や家族愛と同じように、彼らは若いですから、若い男の子が女の子に恋をした。好きになった。といったときに、その子のことをもっと知りたいと思うでしょと。知りたいと思う気持ちと、相手のことを好きになるとか愛する気持ちというのは、きっとよく似ていると思います。だから常に同じように一緒にいたり、隣の子を好きになったりすると、これは心理的なお話になるかもしれませんが、好きになればもっと知りたくなるし、知れば知るほど好きになる。ということだろうと思います。僕はあのこれはこの恵那のまちや、この地域の風土、そういったものを例えば食も暮らしも文化も知れば知るほどおそらく好きになってもらえるのではないかと思い、そういう意味では郷土愛や家族愛など、その日々の暮らしの中で見つけられるささやかなものを含めて、もっともっと子どもたち、そして大人を含めて知っていただきたいと思っています。将来、恵那市のことが語れる人間になれば、必ずや恵那市のことを支えてくれる方になっていくのではと思っています。それから、さきほど樋田委員から、働く場所について意見がありましたが、私は、恵那市だと稼げるとは言いませんが、人並みに暮らせるということも非常に大きな一つの要素ではないかと思っています。働くということは私自身の大きなテーマの一つとして取り組んでいきたいと思っています。特に後藤委員の話にもあったように、ICTを使った働き方もありますので、一つの大きな取り組みとしていけるとしています。この会議の始まる前に、グランピングを得意とする事業者と連携協定をしてきました。新たに恵那市としてはコロナ禍で、アウトドアとグランピングのような新しい観光産業の取り組みをスタートします。大阪ABC放送の子会社の方々から「恵那の方には見えないかもしれませんが、私たちには見える素晴らしい資源が恵那市にはあります。」というお話をいただきました。先ほど、後藤委員から外から来た方に学ぶことが多いというお話もありましたが、まさにそういうことだと思いました。恵那市には先代から守ってきた素晴らしい資源がたくさんあります。これを食いつぶすことなく、次の世代に送ることも私たちの大切な仕事の一つですが、それを多くの方に知っていただいて、味わっていただいたり、見ていただいたり、感じていただくことも大切な一つの仕事だと思っています。そのようなことも含めて、郷土愛、そして家族愛といったものが、もっともっと深まっていけばいいと思っています。もう一つ家族愛の話は、このコロナの中で非常に見直されているとよく報道されています。マ

スクをしないのは家族だけです。そのほかの方とはマスクを着けて会います。その家族の形も昔は一世帯の世帯員は大勢いましたが、今一番世帯員の数で多い割合は一人暮らしとのこと。恵那で言えば、お年寄りそして若い方の一人暮らしになり、家族の形はずいぶんと変わりつつあります。それでもやはり子どもたちを含めて家族の理想の在り方はあるわけです。そういったところも求めていきながら、素晴らしい恵那市を作っていく、これが子どもたちの心に焼き付いて、いつか子どもたちがこの恵那市に帰ってくる。このように思っています。

- 教育総務課長 ありがとうございます。教育長さんいかがでしょうか。
- 教育長 なかなかはっきりとしたことを答えられるものでもなく、特効薬があるわけでもありません。また私たち教育委員会は直接子どもたちに働き掛ける機会は少なく、まずは校長会や教頭会などいろいろな研修会で、先生方にその気になっていただいて、その大切さを知っていただく必要があります。併せて今市長さんが言われたように、知れば知るほどの、その知る部分を授けることが大切だと思いました。今日、教育委員会定例会で後藤委員さんが、教員の在籍の年数についてお話をされました。恵那市は教員の在籍年数が極めて短く、3年で異動になってしまいます。岐阜県の決まりの中では、最長7年まで在籍できますが、異動が0だということ、来年、再来年を見越して一人は動かしなさいという県教委から指導が入ります。ところが、学年単学級は、一般教員は6人の担任と教務主任の7人しか在籍していません。その教員にもう少し在籍していただきたくても、異動対象となります。恵那市を知っていただくだけの年数を在籍していただけないのが非常に残念です。併せて今の若者の風潮もありますが、教員同士の交流が少ないことも、恵那市を深く知っていただく機会が減った原因の一つかもしれません。
- 教育総務課長 ありがとうございます。そのほか何かご意見等はございましたら、ご発言をお願いします。
- 後藤委員 先ほど、教育長がおっしゃった教員の異動が多いという話ですが、やはり先生がたも大切な地元の財産です。せつかく地元の良さを知っていただいたと同時に異動してしまうことは、子どもたちにも影響があると思います。もちろん長く在籍する先生もいらっしゃいますが、新しい先生にもまた新たに知っていただき、そこから積み上げることにはなると思います。郷土愛を育てるという意味でも、やはり教員が何とか長く働ける環境にさせていただけると切に思います。
- 教育総務課長 はい、ありがとうございます。そのほかによろしいですか。
- 委員 はい。
- 教育総務課長 それでは、事務局で案を示しましたこの恵那市教育振興基本計画の後期計画を恵那市の教育大綱としてよろしいでしょうか。ご承認いただけますか。
- 委員 はい。
- 教育総務課長 ご承認いただきましたので、本日の予定していました議題は終了しました。これで本日の会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました

閉会（午後5時00分）